



平成30年1月1日 現在
総世帯数 7,514世帯
総人口 16,969人
男 8,454人
女 8,515人

芳川の今昔物語

第24話

今年で平成になってから30年になります。

30年前の芳川の様子と

今の芳川の様子を写真で見比べ振り返ります。

しめ縄づくり

現在は.....



12月5日(火)、芳川小学校5年生がしめ縄づくりを行いました。講師には、芳川地区の有志17名が集まり、児童に指導をしました。

正月飾りのお椀を作り、二つ目は悪戦苦闘しながら、二つ目以降はコツをつかんで作っていました。自分の家だけでなくおじいちゃんの家の方も作るという児童もいました。



その昔.....
30年前のしめ縄づくりの様子です。みなさんの真剣な表情が印象的です。



村井町



小屋



長丘町



北原町



木工



野溝



美芳町



平田



しめ縄
よか
福

芳川の青空のもと一年間の無病息災を願い三九郎が行われました。

30年前の三九郎の写真です。子どもたちが集まり、中には繭玉を持って

いる子もいます。昔も今も変わらぬ地域文化の伝統行事です。



▲30年前の三九郎の様子(小屋)

変わりゆく村井駅前

今年4月に松本国際高校の開校があり、平成34年には村井駅が新しい駅舎になります。これからは賑わいが増します。



▲昔の村井駅前通り



▲30年前の村井駅

昭和の終焉の日



▲お正月の縄手通り



▲昭和64年 本町商店街にはアーケードがありました。

伝統食やしようま作り

12月13日(水)、芳川地区食生活改善推進協議会主催のやしようま作り講習会が行われました。小川村在住でやしようまレシピ帖の著者である松本博子先生をお招きし、32名の参加者が調理をしました。



2時間ほどの講習で、うめの花や動物の顔を模したやしようまを作りました。やしようまは米粉で作る餅菓子であり、カラフルな色付けには、安心して食べられる野菜などを用いました。参加者からは、「ポイントなどをわかりやすく教えていただき、家に帰つてもう一度作ってみようと思う」という声がありました。



**芳川公民館報
合冊版発売の
お知らせ**



秋頃販売予定としておりました芳川公民館報合冊版ですが、校正作業に時間を要しましたが近日中に発売予定です。ご予約いただいた皆様には、発売日が決まり次第別途ご連絡いたします。

なお、芳川公民館報合冊版は現在も予約受付中です。価格は一冊4,000円、限定200部の発行となります。ご興味がありましたら芳川公民館(電話58・2034)までお問い合わせください。



12月10日(日)芳川公民館で地域づくり協議会主催の子育て支援講演会「子どもの自信とやる気を引き出す接し方」を、アドラー心理学カウンセラー・トレーナーで不登校親の会(モモの会)代表の百瀬敬子先生を招いて行われました。

子育て支援講演会が 開催されました。

子どもとの接し方から始まり、夫婦、職場、全ての間関係が良くなるポイントを教えてください。約50名の受講生が熱心に聞き入りました。「子育てのヒントになった」「帰ってから反抗期の子どもの接し方にすぐに使えるので良かった」など、大好評でした。

木工町会五十周年式典が 行われました。



11月26日(日)、木工公民館で町会内外の招待者を含め39名で町会の歴史を綴った「木工町会五十年のあゆみ」の発行お披露目を兼ねた五十周年式典を実施しました。

「木工町歌」を斉唱から始まった式典は、町会功労者として元木工町会長の田口登志治氏に感謝状の贈呈を行いました。その後祝宴が催され、出席者が歓談しました。

たちばなし

冬休みの楽しみのひとつに、三九郎がありました。地区によつては「どんど焼き」と呼ぶ所もありますね。「三九郎」と呼ぶのは、長野県の中信地方だけのようです。

「三九郎」の呼称については、道祖神の「神主福間三九郎」のお札が配られたことによる人名説。凶作・重税・疾病の三つの苦勞「三九郎」とする説。などと諸説あるようです。

三九郎の火で繭玉を焼いて食べると、無病息災で過ごせるといいます。最近では、繭玉だけではなく、マシユロ、スルメ、ウインナーをアルミホイルにまいて焼く人もいると聞き、正直びっくりしました。私の子どもの頃、母にピンクと白の繭玉を丸めてもらい、柳の枝先に付けて友達を迎えに行く、なんと、色とりどりの繭玉が。あとで聞くと、三九郎は、初めてで、白い繭玉だけではつまらないと思い、絵具で色付けしたこと。今では、楽しい思い出です。